

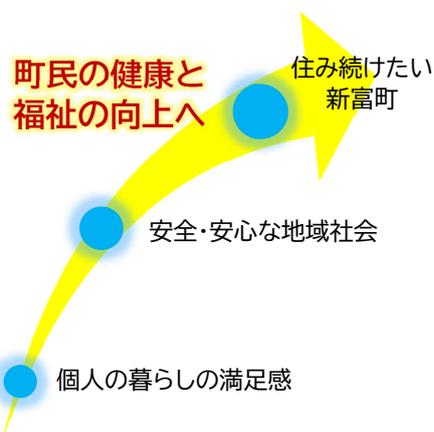
第4章：新富町まちづくり基本構想

1 コンセプト

「町民の健康と福祉の向上～これからも住み続けたいまちへ～」

第6次新富町長期総合計画の基本ビジョンでは、「住んでみたい」「住み続けたい」「住んでいてよかった」「卒業後や定年後には帰ってきたい」「ここで子育てしたい」と思われるまちの実現を目指しています。また、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「子どもが帰ってきたくなるまち」を目指しています。一方で、前計画では集客による地域活性化を推進し、スポーツによる交流活性化について一定の成果が示されています。

そこで本構想では、あらためて町民が身体的・精神的・社会的に満足度が高いまちとして、「町民の健康と福祉の向上」を中心に据えた取組を示し、その実現の積み重ねから、魅力あふれる町の未来へつなげます。



基本方針1：子どもから高齢者まですべての人々が共生するまちの実現

今後、本町では少子高齢化が進むなかで、子どもから高齢者まで、すべての人々が世代を超えた価値観を共有しながら支えあい、豊かに暮らせる地域社会として多世代共生のまちを実現します。



基本方針2：地域の暮らしの満足度を高める新たな場の創造

本町は、豊かで恵まれた自然環境と基地と共生する特徴的なまちづくりを進めてきています。コロナ禍以降の暮らし方が多様化する社会において、住民の満足度を高める新たな場の創造を進めていきます。



基本方針3：地域の人々が主体的に参画する持続可能な仕組みづくり

近年、脱炭素やDX、シェアリングエコノミーなどの新たな視点が重視されています。成熟した社会を持続可能とするため、地域の人々が主体的にまちづくりに参画し、多分野が共創する仕組みを実現していきます。



2 対象エリア及びゾーニング

[まちづくり基本構想の対象エリア]

本町で老朽化が進む主要公共施設や公共空間を対象に住民生活の質の向上を図るため、町全域を対象とします。各ゾーンの取組を示すとともに、ゾーン間の動線も考慮します。

ゾーニング

①中心拠点ゾーン

新富町の行政機能や商業が集積する中心的な場所
→役場隣接の福祉施設や体育館の老朽化が進み、新たな施設整備が求められる

②スポーツ健康ゾーン

新たな地域活性化拠点としてスポーツや交流機能を担う場所
→サッカー場来訪者の街なかへの回遊性向上が求められる
→地域内外の交流促進に資する魅力向上や拠点強化が求められる

③レクリエーションゾーン

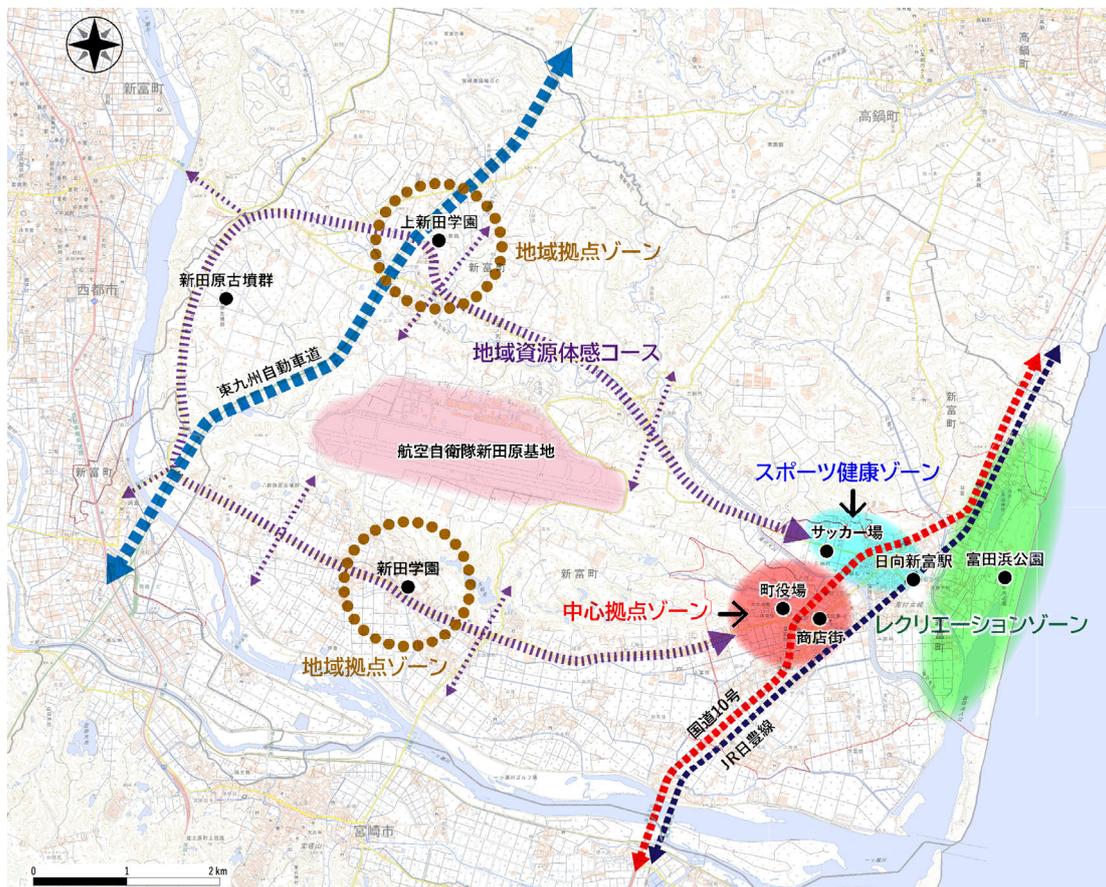
富田浜は自然環境を有し、レクリエーション拠点として活用されている場所
→公園全体の老朽化や入り江の水質改善、自然を保全しつつ有効利用が求められる

④地域拠点ゾーン

小中学校や支所などが立地し、町内外の人々が回遊する際のポイントとなる場所
→老朽化施設更新と合わせて、地域コミュニティを維持する拠点形成が求められる

⑤地域資源体感コース

新田原基地を囲むように町内を回遊する県道・町道を活用したコース
→歴史や自然などの地域資源を体感できるコースとしての環境整備が求められる



3 各ゾーンの取組方針

(1) 中心拠点ゾーン

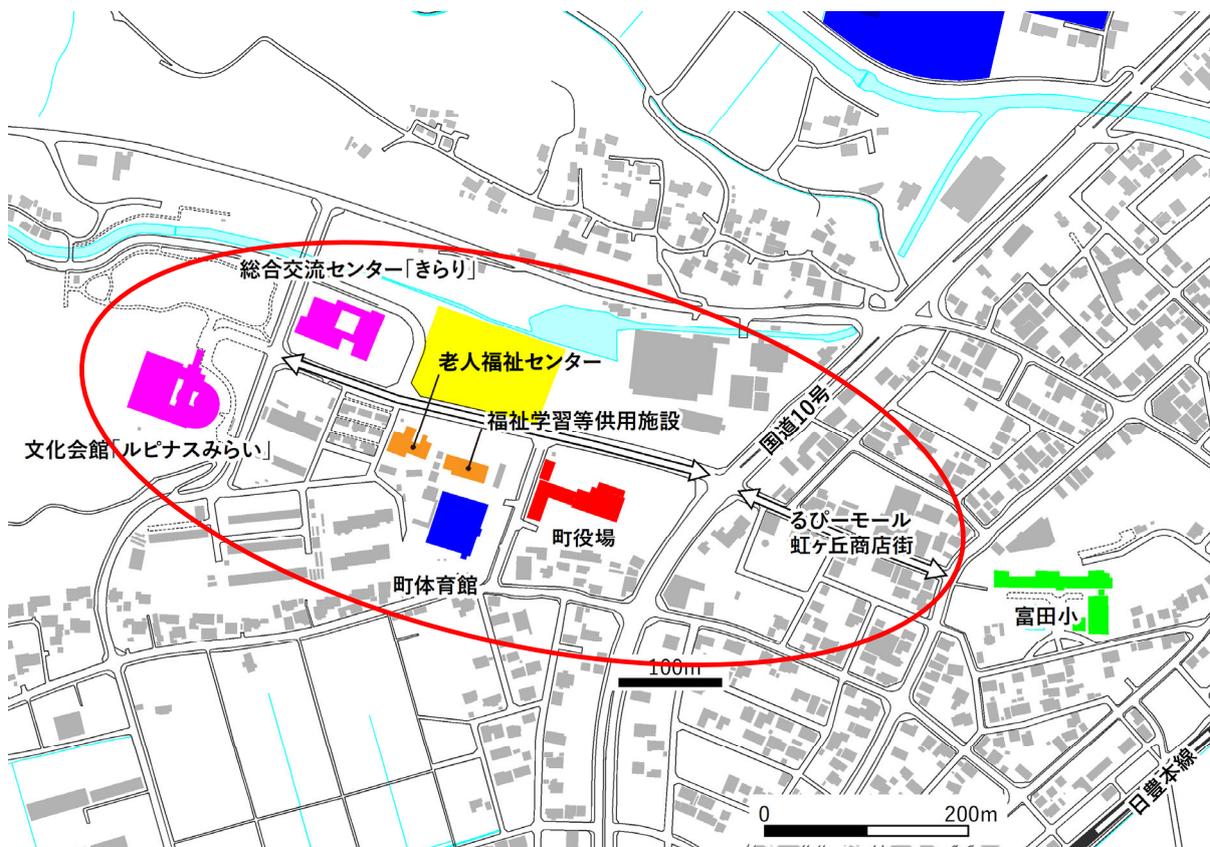
[対象地の概況]

- ・ 中心拠点ゾーンには町役場をはじめ、福祉施設や文化交流施設、スポーツ施設が立地しており、国道10号を挟んで商店街が続いている。
- ・ ゾーン内の公共施設のうち、福祉学習等供用施設や老人福祉センター等は築年数が約50年を経過しており、施設更新の検討が求められている。



[ゾーン内の主な公共施設]

施設名称	機能	建築年度	延床面積
町役場	行政サービス	1969年	4,854 m ²
老人福祉センター	高齢者や児童クラブ	1976年	660 m ²
福祉学習等供用施設	会議室	1972年	1,319 m ²
新富町体育館	バレー、バスケット、卓球など	1973年	2,999 m ²
総合交流センター	図書館、クッキングスタジオなど	2015年	3,399 m ²
文化会館	大ホール、イベントホールなど	1999年	5,344 m ²



特に町民が利用する便益施設が多いこのエリアでは施設間の連携を高め、利用者が立ち寄りやすい環境を整える必要がある。

(1)ー1:福祉施設の統合と周辺施設の環境整備

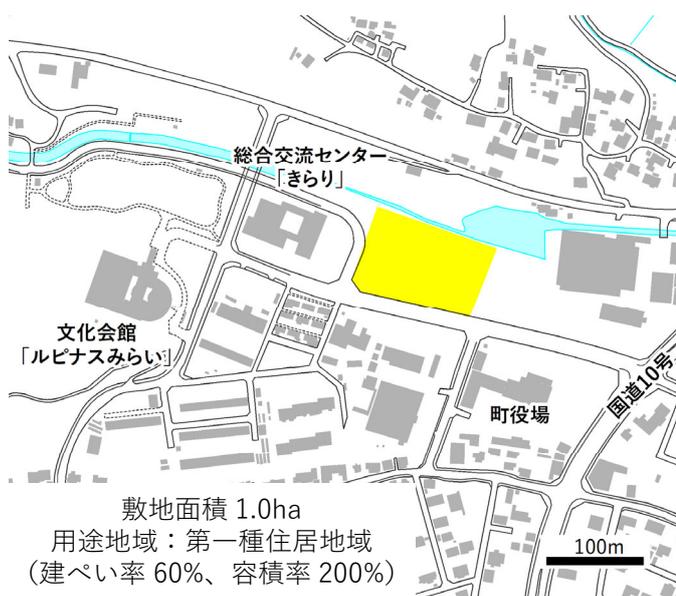
【目的】

既存の福祉学習等供用施設及び老人福祉センターでは、町民からの福祉全般の相談や支援、児童クラブ運営など、多世代、多岐に渡り業務を実施している。しかしながら、旧耐震施設であり、老朽化やバリアフリー化されていない当該施設は町民にとって非常に利用しづらい場所となっている。

また、本町庁舎においても、福祉課やいきいき健康課など町民の福祉や健康に関する事務を実施しているが、業務量の増加に対応する人員の増加に庁舎の面積が不足しており、特にあんしん長寿課やいきいき健康課は、庁舎の間取りに合わせて課が分断されており、子どもの健診設備の不足など、利用しづらい施設となっている。

他方、本町には児童館（児童に健全な遊びを与えて、その健康を維持し、又は情操をゆたかにすることを目的とする児童福祉施設）が無く、特に日照時間の長い宮崎県では夏季、秋季において児童が安心して安全に遊ぶ場所が町内に無い。また、病気になった児童を預かる施設も無いため、共働き世帯からのさらなる子育て支援環境の充実も求められている。

このような課題を解決するため、現在実施している様々な機能は維持しつつ、不足している機能を追加した上で、昨今の社会情勢や町の財政状況等を踏まえ、機能を集約し、本町の福祉の拠点として町民の健康福祉の向上を図ることを目的とする。



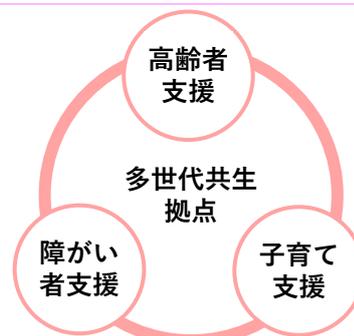
[取組方針]

コンセプト：多世代共生拠点

【基本的な考え方】

現在の福祉施設及び町体育館の敷地等を一体的に活用し、子どもから高齢者、健常者も障がい者ともに交流する施設整備を目指す。

- ◆高齢者支援：生涯学習、介護予防…
- ◆子育て支援：子育てサロン、児童館…
- ◆障がい者支援：自立支援、就労支援…



【取組方針】

- みんなが使える**・・・バリアフリーやユニバーサルデザインでの整備
- みんなで遊べる**・・・児童館や高齢者サロン、だれもが遊べるインクルーシブ設備
- みんなで楽しむ**・・・各支援施設のほか、みんなで楽しめる共用空間を整備
- みんなを守る**・・・災害時の避難施設を想定した整備

[主な導入機能]

- 行政機能
健康・福祉に関する相談や支援を行う福祉課やあんしん長寿課等に必要な執務室や受付等の接客に対応できる設備
- 社会福祉機能
福祉に関する相談や支援に必要な事務所、倉庫、各種福祉事業に必要な部屋や受付等の設備
- 子育て支援機能
共働きの子育て世帯を支援するため病気の子どもを預けることができる病児・病後児保育や放課後児童クラブ等に必要な設備
- 児童館機能
健全な遊びや健康の維持、熱中症予防など安心・安全に遊べる屋内遊戯スペースやオープンスペース、健診時に子どもを観察する観察室等、児童や親が安心して過ごせる設備
- 健診機能
子どもが順調に育っているか確認し、子どもの健やかな成長を支援する乳児健診や3歳児健診など児童の健診に必要な設備
- 児童生徒支援機能
学校に登校することが難しい児童の社会的自立支援を行う教育支援教室（けやき教室）に必要な設備
- 共用・管理機能
子どもの健診や健康体操、いきいきサロン、健康に関する研修などが実施できる様々な規模の会議室や職員用ロッカー、休憩室、書庫・備蓄倉庫等の設備

参考事例

[桑名福祉ヴィレッジ:桑名市 HP より]

■概要

- ・ 少子高齢化や人口減少、福祉ニーズの多様化・複雑化など、大きく変化する福祉分野を取り巻く環境や課題に対応した福祉サービスを確保するため、高齢者・障害者・子どもなどに対して通所や入所、相談などを包括的に提供する多世代交流・多機能型の福祉施設の整備が令和4年4月にオープンした。
- ・ 施設は、「すまいのエリア」「かよいのエリア」「かかわりあいのエリア」「ヴィレッジ公園」の4つで構成しており、「すまいのエリア」は母子家庭や高齢者の暮らしを支える施設があり、「かよいのエリア」は子どもから高齢者、障がいのある人などが自然な交わりの中で過ごせる環境を提供、「かかわりあいのエリア」は誰もが気軽に訪れることができるラウンジやショップ、「ヴィレッジ公園」は施設利用者に限らず誰でも散策や休息に利用できる公園。

桑名福祉 ヴィレッジが オープンしました!

子どもから高齢者まで、また障害の有無に福祉のかたち」の実現をめざす「桑名福祉ヴィレッジ」がいよいよオープンしました。
(所在地: 桑川2239-1)

3/27に完成式典が行われました



3/27に完成式典が行われました

子どもから高齢者まで、また障害の有無に福祉のかたち」の実現をめざす「桑名福祉ヴィレッジ」がいよいよオープンしました。
(所在地: 桑川2239-1)



かかわりあいのエリア
すまいのエリア
かよいのエリア
ヴィレッジ公園

かかわりあいのエリア

施設の利用者やその家族だけでなく、誰もが気軽に訪れることができる「ヴィレッジセンター」と、食器や日用品「ハンドメイドのアクセサリー」などの販売を行う「らいむショップ」があります。

2階は地域住民の交流や社会福祉の推進、多目的に利用を促進する場として活用されています。



- らいむショップ
火～土曜日 9:30～17:00(祝日を除く)
☎ 080-7525-3061
- ヴィレッジセンター
火～日曜日 9:00～17:00(祝日を除く)
☎ 41-2955

すまいのエリア

母子家庭や高齢者の暮らしを支える施設があります。移動前の施設に比べ設備が充実し、それぞれの施設の良さを共有し合えるようになっています。

シルバースポーツの「はハ」ウスの食堂から「保育園」の定食室の様子を見ることができるようになっており、日々の生活の中で子どもたちから元気をもらうことができます。



- らいむの丘ハイム(母子生活支援施設)
18歳未満の子どもを養育している母子家庭などが、子どもと一緒に利用できる施設です。
- らいむの丘(高齢者人ホーム)
身体・精神・経済的な理由などで、自宅での日常生活が困難なおおむね65歳以上の人が暮らす施設です。

かよいのエリア

子どもから高齢者、障がいのある人まで、さまざまな人が通う施設があります。子どもたちが年齢や障害の有無に関わらず自然な交わりの中で過ごせる環境をめざします。また、障害福祉サービスや、介護保健制度利用に必要な計画作成を支援する事業も、より障がいのある人が高齢者と一緒に「障がい」を越えて生活し、適切なサービスを受けようとしています。



- らいむの丘保育園
- ナーシングセンターらいむの丘(生活介護)
- 児童発達センターらいむの丘
- 相談支援センターらいむの丘
- ケアプランセンターらいむの丘

ヴィレッジ公園(やまほ公園)

既存林を保全し整備される公園

芝生広場や散策路から公園「ヴィレッジ公園」の歴史が感じられる。また、公園「ヴィレッジ公園」の歴史が感じられる。また、公園「ヴィレッジ公園」の歴史が感じられる。また、公園「ヴィレッジ公園」の歴史が感じられる。



- 芝生広場
既存林を生きつつ適度な植栽を行い、身近に自然を感じられる公園です。芝生は養成中のため、丁寧にお使いください。

※ 特別企画にて
桑名福祉ヴィレッジ大解剖!

☎ 秘書広報課 ☎ 24-1492 ☎ 24-1119
☎ らいむの丘 ☎ 41-3820 ☎ 41-3828



(2) スポーツ健康ゾーン

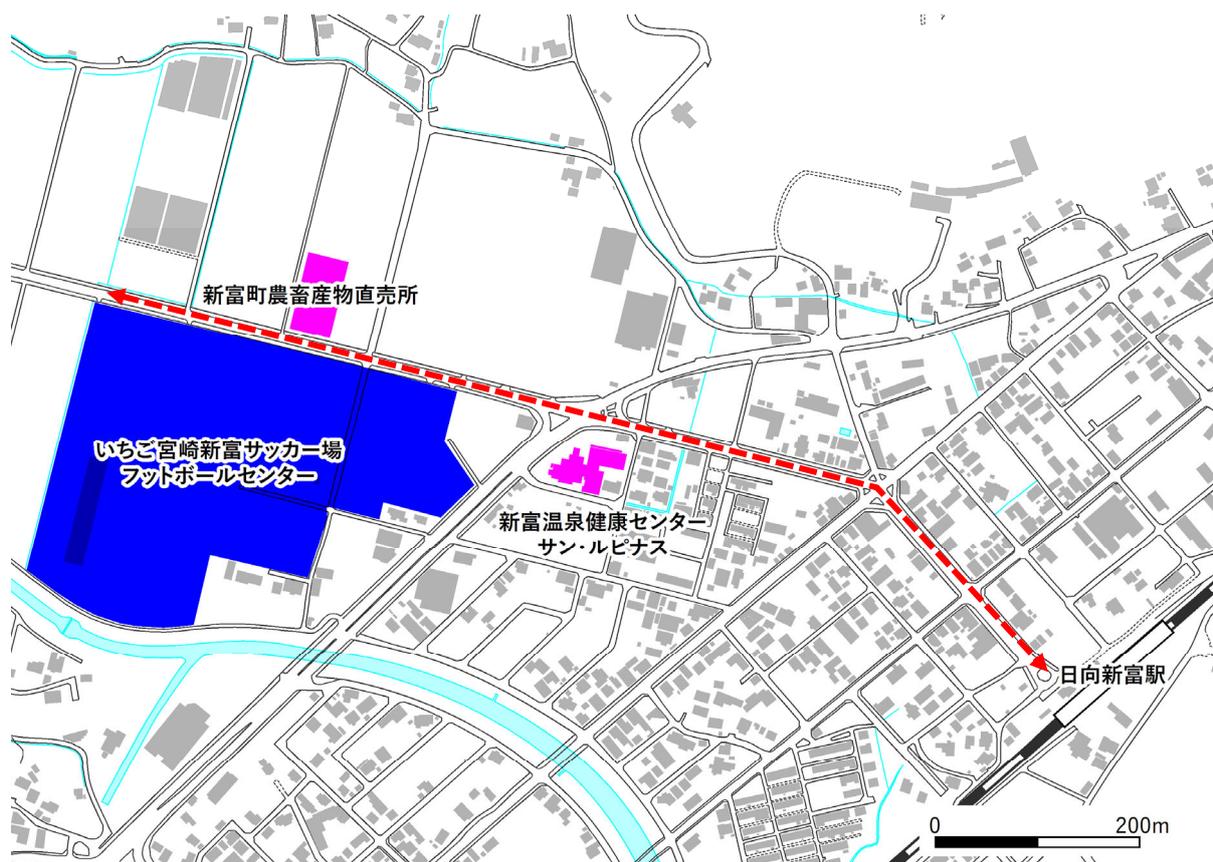
[対象地の概況]

- ・ スポーツ健康ゾーンには、JR 日豊線 日向新富駅から北西へ約 700m にいちご宮崎新富サッカー場、フットボールセンターをはじめ、新富町温泉健康センター サン・ルピナス、農畜産物直売所が立地している。
- ・ 「テゲバジャーロ宮崎」、「ヴィアマテラス宮崎」のホームグラウンドとして、年間に約 13 万人が訪れているが、来場者の街なかへの回遊が課題として挙げられている。



[ゾーン内の主な公共施設]

施設名称	機能	建築年度	延床面積
いちご宮崎サッカー場	サッカースタジアム	2021年	—
フットボールセンター	フットボールコート	2023年	—
新富温泉健康センター サン・ルピナス	温浴施設	1989年	762 m ²
農畜産物直売所	農畜産物販売施設	2024年	1463.5 m ²



スポーツ健康ゾーンでは、近年整備されたサッカー場等の既存施設の連携強化、ゾーン一帯の更なる魅力向上による町内外から多くの人々が集い・交流する場を目指す。